

深・魅力通信

魅力ある「袋井あやぐも学園幼小中一貫教育研修会」

6月10日に、「袋井あやぐも学園幼小中一貫教育研修会」が行われました。本来ならば学園内全ての先生方が袋井中学校に集まり、15歳の出口の姿を共有しようと考えていました。しかし、新型コロナウイルス感染症が心配されるため、袋井中学校区に赴任された先生方のみを対象にして、中学校の授業を公開しました。iPadとMeetを活用して、学園内の教室と鳴門教育大学をつないで研修会を実施しました。研修会は、小澤一則会長のあいさつに始まり、久我直人鳴門教育大学教授の講話、そして各クラスでの分散会を行いました。



「あ〜わかった」と、八神史典教諭と生徒たちは、相手の意見を引き出す聞き方をしていました。



大瀧仁美教諭から「しっぽをつけたのが、とってもいいですね。」と、**ボイスシャワー**。クラスのみんからも「あ〜すごい」と**ボイスシャワー**が掛けられていました。



「『うなずく』『目で聞く』ことを繰り返して、積み重ねていくことが大切なのでは?。」**「聞く指導」**によって**規律が守られるようになっていて、効果が出ている。**堀内剛教諭がコーディネートしながら聞く指導について、議論を深めていました。



「指示がなくても行動できる**主体性**を育てたいですね」と大石尚代教諭が語っていました。



ロイノートが有効に活用されて**主体的な学び**が行われていました。



袋井中学校には、静岡新聞と中日新聞からの取材もあり、袋井あやぐも学園の魅力が広く発信されました。

演。確かな学力を育み、いじめや不登校などを低減する「勇気づけ教育」の組織的展開について解説し、

研修会であいさつする小沢一則校長（右から2人目）ら＝袋井中＝

子どもの内面と行動に基づく効果的な指導法を説いた。学園外から異動してきた教諭らを対象とした授業参観もあった。各会場では幼小中一貫教育の目標や課題などについて意見を交わす分散会が行われた。

同市の幼小中一貫教育は施設分離型で、十二年間を見通したプログラムに基づき、各学園が創意工夫しながら教育の充実を図る。

（土屋祐一）

夢追う子どもを育成

袋井中学校区 幼小中一貫の全体研修会

四中学校区、この幼小中一貫教育を四月から本格的にスタートさせた袋井市で、「袋井あやぐも学園（袋井中学校区）」の全体研修会が十日、学園を構成する袋井中学校と袋井東・袋井西・袋井北の各小学校を会場に行われた。

ビデオ会議アプリを活用した研修会には、四中学校に加え、五市立幼稚園、民間幼児保育園の教職員、保育士計約百八十人が参加した。各校とオンラインでつないだ袋井中では、あやぐも学園を統括する小沢一則校長が「学園の教育目標である『夢を追いつける子どもを育成』に向けて挑戦してほしい」とあいさつ。幼小中一貫コーディネーターの高橋壮臣教諭が一貫教育の方針などについて説明した。

続いて、鳴門教育大教職大学院の久我直人教授が講

2020.6.12 中日新聞

2020.6.12 静岡新聞

オンライン講演会も行われた。

市は本年度から一貫教育を全面实施して、学園ごとに教員を対象とした研修会を定期的に開催している。あやぐも学園の学

園長を務める袋井中の小沢一則校長は「コロナ禍でも新しいツールを活用しながら共通理解を図り、子どもたちの育成に力を合わせていく」と話した。

幼小中一貫方針を確認

袋井あやぐも学園 教員対象に研修会

袋井市立袋井中と小学校などで構成する区内の幼稚園、保育園、「袋井あやぐも学園」

授業の進め方などについて意見交換する教員＝袋井市立袋井中＝

は10日、幼小中一貫教育についての研修会を袋井中など4会場で開催した。教員約200人が本年度からの教育方針などを確認した。

新型コロナウイルスの感染予防として、オンライン中継で実施。教員同士で意見交換を行い、授業の進め方や学園の力キニラムに基づいた取り組みについて協議した。授業見学や、学園のアドバイザー役を担う鳴門教育大教職大学院（徳島県）の久我直人教授による

学園内の先生方は、密を避けてソーシャルディスタンスをとりつつも、意識と気持ちの面ではギュッと密になることができました。

「1人の100歩より100人の1歩」